



市議会議員
元上越市長

みやこしかおる 緊急市政報告

文責：宮越 馨

上越市東城町 3-9-26
TEL・携帯 090.1120.9652
この市政報告は、政治活動費(個人分等)によって作成しています。

中川市長(災害対策本部長)の危機管理能力の低さにあ然!

これでいいのか!上越市の震災対応!

自宅待機で登庁せずとは? 大混乱!

—2月20日時点の被害状況—

能登半島地震で我が上越市は、震度5強の激震に見舞われましたが、大きな地震としては1847年弘化の高田地震以来もので、近年、稀にみる被害状況は、2月20日時点で、

- ①人的被害6件、②建物被害1440件(一部損壊1081件)、③公共施設被害93施設、④文教施設一部損壊84施設、⑤道路被害等237件、⑥農林水産被害74件、⑦ガス水道施設143件、水道の断水4か所、⑧下水道施設2か所、⑨港湾被害2か所となっています。

主な大混乱状態

- 学校等の避難所の鍵が開かない!
- 津波避難方法が不明で大混乱!
- 防災行政無線の伝達が不明瞭!
- 車での避難が大渋滞(通行麻痺)を引き起こす!
- 真冬の避難所(場所)対応不備
- 避難所の備蓄材に不備あり
- 被害把握は極めて遅い。市長の現場主義は偽りか!
- 地震災害対策本部長(市長)の顔が見えない。

—1月4日の記者会見及び2月7日の議会全員協議会から見たもの!—

疑問1 地震対策本部長の「市長はなぜ在宅」で、本国会議を欠席したか?

●地震対策本部長である市長は招集者です。どんな事情があろうとも登庁すべきであるにも拘らず、本国会議はリモート対応で登庁せずとの説明でした。果たして市長は登庁不能であったかを検証するため、私は地震直後の3日に、国道8号線茶屋ヶ原での土砂崩落で通行止めの情報があったので、現地を視察しました。桑取・谷浜の地元住民の地震直後の動きも聞き取りました。交通止めや津波対応の状況から、地震発災時の1月1日の午後5時過ぎには津波も収まり、桑取地区の住民の交通障害はなかったことが判明しました。



国道8号線
茶屋ヶ原の
現場

1月3日
現地視察

したがって、本国会議が午後6時30分でしたから市長は十分間に合ったはずであることが判明。

この点について、2月7日の「全員協議会」で市長が出席する機会を捉え、その理由を問おうとしましたが、市長は欠席したため、登庁しなかった理由を明らかにすることができませんでした。この点については改めて3月議会などで明らかにします。

疑問2 津波避難で街中大混乱は「帰省客が原因だとは」驚きです。

●大地震の上津波が来る!との情報で多くの市民は、行政からの明確な情報コントロールもなかったため、我先にとあらゆる高台方面へと車で避難しました。このため国道・県道・市道のいたるところで渋滞が発生し大混乱に陥りました。遠くは「新井道の駅」まで避難された状況を見て、渋滞の原因は「帰省客が原因」だとの記者会見での市長のこの発言は的外れで、本部長としての自覚もなく、認識の甘さが問われます。

疑問3 震災対応は「万全だった」の発言にはあ然!

●今回の災害対応については「大きな課題はない」、津波からの避難の呼びかけは「万全だった」には驚き!です。

実際には十分にその声が届いていませんでした。防災訓練をすれども実際では機能不全!訓練は市長の単なるパフォーマンスだったのか!訓練の都度職員は真面目に対応し、実際の災害に備え取り組んできて、今回の震災の事態においては、予期せぬことがあるとしても、職員の対応は「万全を期した」とほぼ評価しますが、本部長の対応は落第です。現市長には市民の生命身体財産を託せない重大問題であるといわざるを得ません。

疑問4 なぜ「全員協議会」への出席を拒んだのか? リーダーの資質ゼロ!

●「全員協議会」とは、市政運営上極めて重大かつ緊急性を要する場合、議会の開催の手續等を省略し、事実上議会開催に準ずる制度として、議員が全員集合して基本的事実について原則自治体の長が出席して説明し、議会での審議決議に準ずる「質疑」を行う場なので、市長のこの度の様な震災の状況報告事案については当然市長が出席しなければならないのです。私が市長の時は当然出席していました。市長の危機管理能力、資質及び責任が問われます。

私の緊急!!地震・津波対策を万全にするための提案です。

- 大雪時・津波・原発事故を想定した防災訓練の見直しを進めます。
- 建物耐震基準を2000年基準へと普及実施するための対策を強化します。
- 直江津・谷浜海岸及び河川(関川・保倉川)の堤防の高上げを整備するとともに、新たに国へ直江津海岸における潮位計器の設置を求めます。
- 津波避難方法を見直すとともに、津波ハザードマップを見直し、防災行政無線体制を改善します。
- 旧古城小学校を三世交流施設に改装し、津波避難所(場所)を整備するとともに、防災学習施設を整備します。
- 学校等公共避難所のカギの開閉及び河川の樋門(含むマリナ)の開閉を自動化します。
- 港町1丁目に特定公共賃貸住宅を、津波避難所(場所)機能を付し1棟建設します。
- 緊急時・長期避難対応が可能な避難所整備に加え、日常生活のできるテント村機能を整備します。
- 官民連携による緊急避難場所のネットワーク態勢を整えます。
- 緊急災害援助隊としての自衛隊高田駐屯地との連携協力体制の強化を図ります。
- 首都圏など遠隔地自治体との災害時緊急応援体制のネットワーク化を進めます。
- 自助・共助・協働を原則として地域防災力を高める「防災士」制度を充実し、自主防災体制を強化します。
- 万が一の災害に備えて、災害復旧・復興基金を創設します。

—被災者支援は「同一災害には同一支援を!」支援は格差・分断無しで大胆に!—

市長とは 私が市長時代に実践した過去の危機対応

①大洪水対策(平成6年夏季)

●断水も仕方なしとする危機的渇水状態であったが、私は、断水は市民生活に大ダメージを与えることから、断水は絶対避けねばならないとの強い考えの下で、率先して新規水源として消雪用井戸水の活用に加えて、緊急対応として、新たな地下水井戸を掘り(その後有効活用)。また農業用水の獲得で何とか断水を避け、大洪水の危機を乗り切りました。

②7.11水害(平成7年)

●梅雨前線の活動による集中豪雨により、関川の妙高市月岡地点での堤防決壊が和田地区に氾濫をもたらし、和田小体育館を避難所にしつつ、下流域に溜まって集落の水

没が懸念されたことから、緊急排水のため、私(水害対策本部長)の決断で、矢代川の堤防をカットし、集落を水没危機から救いました。

●同時に保倉川も氾濫し、下流域の住家などへの床上下への浸水は多く発生し、その上企業団地への冠水被害が懸念されたため、被害の拡大を食い止めるために、急遽私は自衛隊の出動を要請し、危機一髪で企業団地への大きな被害を食い止めることができました。

●こうした保倉川の氾濫は歴史的にも度重なることから、翌年には国が保倉川の放水路の建設を進めることになりました。しかし建設には長い時間を要するため、私は、暫定的な対策として「遊水地」整備は有効と考え、こうした水害の被害を減少させる手法として、県の事業として

保倉地区に遊水地を40万㎡の規模で建設していただきました。そして保倉川の流下障害となっていたプレジャーボートの不法係留を解消する効果を含め、国へ河川マリナーナの建設を要請した結果、素晴らしい「上越マリナーナ」が完成したのです。

③ナホトカ号重油流出事故(平成9年1月)

●平成9年1月2日未明に島根県隠岐島沖で発生した「ロシア船ナホトカ号」が海難事故で大量の重油を流出させた事件で、上越海岸にも押し寄せ(1月21日)、大きな海洋汚染を発生させましたが、私は、事故現場から見るに、やがて海流に乗って上越海岸を襲うと判断し、重油が流れ着く前から重油の回収体制をいち早く整え、被害を最小限に食い止めました。

中川市長の数々の言動は異常です!!



市議会議員
元上越市長

みやこしかおる市政報告

文責：宮越 馨

上越市東城町3-9-26
TEL・携帯 090-1120-9652
この市政報告は、政治活動費(個人分等)によって作成しています。

いよいよ異次元の「子ども年金」の出番です!

国の存続危機を救い、地方からの国づくりを始めます!

今すぐ市政立て直しを!

私は、常に上越市の発展を願い、いかにしたら実現できるかを念頭に置き、全国に誇れるまちづくりを目指し、そして困っている人々のための政治を断行することを信念としています。

思うに、平成13年の3期目の市長選では、思わぬ抵抗勢力に遭遇したこともあり、全国にも発信し続けた市政の流れが断絶し、その後の市政発展に大きなブレーキになっていることが、市会議員として政界へ復帰させていただく中で痛感しているところです。

日く、私の市長時代には、特に、13区の皆様にはあまりご存じないかと思しますので、あえて申し上げます。

- 多くの市民の皆様と職員の燃える力(燃える上越!緊急1万人総決起大会など)で、様々な困難を乗り越え、新幹線をフル規格で実現させました。
- 将来の財政基盤の確立のため、巨額な税収確保が可能な火力発電所を市長直属事業として誘致しました。令和4年度の税収では、火力発電所だけで、全市の法人市民税収入額30億円を超えています。火力発電所からの税収が無かったら財政は破綻です。
- ISO14001(国際環境マネジメントシステム)を全国の都市で初めて導入し、全国に広めたことで地球環境大賞を受賞し、地球環境都市宣言も行い、地球環境都市全国1位に輝きました。
- WPF(ワールドパートナーシップフォーラム)国際会議(在京の各国大使・公使などが参集)を地方中核都市で初めて開催し、地球環境都市への取組を世界にアピールしました。
- 副市長制度を全国で初めて導入し、自治体経営システムを全国へ普及させるなど、改革市政ランキングで全国1位(694市区中)になりました。
- 子育てでは、「子育てするなら上越市」とのスローガンの下での、子育て政策が高く評価され、NHKが全国へ「素晴らしい子育て都市」として紹介されました。
- 介護保険制度のスタートに合わせ、介護施設の充実のため、いち早く県下初のケアハウスを整備しました。また、介護保険準備の全国ランキングは44位(617都市中)県下1位でスタートしました。介護態勢は盤石です。
- 国が廃院を予定していた国立高田病院を引き受け、今後の高齢化社会の進展を見据えて、市立の上越地域医療センター病院として開院しました。
- 都市と農村の在り方を希求し、上越市を「農都市」と概念付け、食料自給率の向上などを目指して、農都市条例を全国初で制定しました。
- 農村の文化的な生活環境の改善策の下水道の普及では、一市1年1か所ルールを特別に2か所でスピードアップし整備しました。
- 農業振興では、大豆転作800ha作戦を支援、また、土地改良事業費の負担軽減策として全国初で、市の10%負担制度を新設し、農民負担を軽減しました。
- アーバンビレッジ「田園」を全国に先駆け建設(優良田園住宅建設促進法が上越の例をもとに法制化されました)

しました。大平内閣の田園都市国家構想を実現。

- 旧上越市の西部中山間地域の振興のため、湯ったり村・ヨーデル金谷・正善寺工房(廃校活用)・地球環境学校(廃校活用)を整備しました。
- 中央官庁の課長クラスを上越市に結集し、まちづくりサミットを全国で初めて開催し、国及び全国に誇れるまちづくりを進める機運を高めました。(こうした仕組みで国からの様々の支援を有利に獲得しました)
- 都市計画事業では、謙信公大通り、謙信公大橋、新道北部区画整理(その内のオフィスアルカディア構想は次期市政が断念し構想を破棄)、鴨島子安新田地区画整理などを進め、下水道整備などの都市的住環境改善を推進しました。
- 住みよさランキング県下1位に、全国25位(671市区中)までに向上させました。
- 古いまちの玄関口であった高田駅前を再開発し、城下町風情の雁木、雁木通りプラザを整備するとともに、古い直江津駅を市の事業(約36億円)として直江津らしさのあるコンセプトで全面建て替え、南北自由通路(市道)も整備しました。また、春日山駅も現在の場所に移転し、鉄道利用者の利便性を高めました。(市役所へのアクセスは未整備)
- 直江津港に無かったコンテナ航路をトップセールスで初めて開設(釜山航路)しました。
- 企業誘致では、日本で一番の地球環境都市であるとして、米企業の出出があり、また、大企業誘致では、市長時代に当時の日立製作所社長庄山悦彦様(高田出身)に依頼し実現した太陽誘電ほか 荏原ユージライトなど多数実現しました。
- 上越インターの所に緊急流通業務団地を整備するとともに、接続する黒井福橋藤野新田線の都市計画道路を計画(現在工事中)しました。
- 市民プラザを当時のジャスコ様から無償譲渡を受け、全国2番目のPFI方式で整備しました。(子どもセンターも併設、太陽光発電パネルも設置)
- 入札契約適正度ランキングでは、全国主要都市で第1位(140市中)になりました。
- 奇跡的に私が直接交渉し、取得した高田出身の小林古径画伯の邸宅(建築界の巨匠吉田五十八作の現代数寄屋造り)を移設復元しました。(両氏は文化勲章受賞者)

- スキー発祥の父レルヒ少佐の遺品を、整理寸前のところ、ご理解をいただき、遺族様から無償での贈与を受け、日本スキー発祥記念館を充実整備しました。
- 観光振興のために、高田城「極楽橋」の復元をしました。そしてその先の柵形門の復元を予定していましたが、今も手付かず。直ちに復元すべきです。
- 歴史観光資源の展示場として春日山城下に「埋蔵文化財センター」を拠点施設として建設しました。
- 雪国での生活安心策として、私が考案した加温式消雪パイプの普及を始めましたが、後続の市政では、その整備が遅々として進んでいません。これは行政の不作為であります。誠に無念です。
- 新潟薬科大学の分校誘致を約束し、そのために2000万円を予算化するも、後続の市政は実行しなかったことが悔やまれます。
- 平成12年に将来のIT革命社会を視野にいれたまちづくりのため、政府のIT都市モデル事業(全国10か所1都市事業費10億円)にエントリーし採択されたが、後続の市政がギブアップ。残念。
- H7年、7.11水害で関川・矢代川下流の氾濫地区を堤防を切って、水害から住民を救いました。
- 保倉川の水害予防対策の緊急措置として、保倉川遊水池(40万㎡)及びマリナーを国・県の協力を得て整備しました。
- 高田公園内の居住者移転に加え、県の協力を得て電柱の地下埋設と同時に公園通りを2倍の広さに拡幅しました。併せて古い陸上競技場をリニューアルするとともに、全国桜サミットを開催し園路をグレードアップしました。
- 高田郵便局の現地建て替え案(大手町小前)の変更を依頼し、まちづくりの一環として、前島密翁をしのびつつ、現在地にモダンな郵便局にして建て替え移転させていただきました。
- (BMX)若者スポーツの振興のため、金谷山にBMXコースを新設し、オリンピック選手排出を目指しました。
- えちご・くびきの100キロマラソンを、大上越圏の融和と全国への発信企画として、私の発案でH8年にスタートしました。
- 直江津捕虜収容跡地に「平和記念公園」を整備し、オーストラリアのカウラ市と友好都市関係を締結し、非核平和友好都市宣言も行い、中国琿春市・韓国浦項市とも国際友好都市を締結しました。

このように、私の様々にわたる発想と決断と実行を基本として、上越市は大きく飛躍し、発展する基盤を作りましたが、後続の市政では特段の政策も無く、大きなブレーキとなり、上越市は大きく後退局面に入ってしまった。特に当時の議会も承認し、国からの評価も高かった30年超長期プランである「のびやか」プラン(夢と希望に満ちたプラン)の否定とその放棄は、上越市の飛躍の芽を摘んでしまったのです。中でも、のびやか」プランに沿って取得した、まちづくり用の土地を盲目的無計画に処分したことが、まちの発展を遅らせ、大きなダメージになったことは無念でなりません。

そして、最大の失望は、輝かしい日本一の地球環境都市からの脱落です。加えてまちづくりの最大のポイントであった新幹線のまちづくりの遅れが、上越市の飛躍的な発展を大きく遅らせてしまったのです。今こそ、市政の立て直しをすべき時です!

更には 国の思惑に沿って、強引に変則的な大合併を推し進め、結果的に財政収入が大きく減額され、さらに人口減少を加速させてしまったことは、大失敗であったといえます。

このため、一昨年の市長選では、私は出馬を断念し、新たな視点で私の政策を実行できるようにとの思いと、中川幹太候補からも、支援の要請を受け、また、指導して欲しいということでしたので、中川市長誕生に私の支持者を中心に支援させていただきました。

しかしながら、市政に新しい風を送り、再び上越市の発展に希望を託しましたが、残念ながらそうした期待も約束も中川市長には、ことごとく破られてしまいました。今は、中川さんに騙されたのだと気がきました。残念・無念です!

応援いただきました皆様に、心からお詫びいたします。今や国・県の方面からは、このままでは10年遅れてしまうという声すら聞こえてきてしまう有様です。困ったものです。

市民からも 中川市長に対し、大変厳しい声が沢山寄せられています。

- ① 中川市長のビジョンが見えない、何をしようとしているのか分からない!
- ② 市長になりたかっただけのことか! 選挙に勝つことだけが目的でウソが多い!
- ③ 宮越氏との政策協定をなぜ実行しないのか! 約束違反だ! 選挙詐欺だ!
- ④ リーダーシップに欠け、議会答弁もまともにできない、職員も失望し、市政を停滞させている!
- ⑤ 特定高校への蔑視発言は絶対許せない! 市長の辞任・交代を強く求める! リコールだ!

市長とは…

常に市民の幸せを願い、まちの発展を考え、先見性によるビジョンを持ち、行政職員の推進力を得て、リーダーシップを発揮する能力を持つ者を言う。即ち俯瞰力を持ち、政策力、実行力と説明責任能力を持たなければなりません。

しかし中川市長はビジョンを示せず、市長要件を満たさず、軽薄で思いやりのない、ウソも多く上から目線での言動は、平気で人(市民)の心を傷つけることが多い現実を見て思うに、県下第3市の市長として全く相応しくないと断じざるを得ません。地元出身でない故に無責任な悪い面が諸問題を引き起こし、人心も離れ、職員からの信頼も落としています。

その根源は、ただ権力をもつ市長職になりたかっただけのことが、大変危険な状態をつくっています。

特に、この度の市内の特定高校に対する蔑視発言や上越市民をリスペクトしない発言は、市民を代表する市長の発言としては、絶対あり得ません! 言語道断で! 市長失格です!

ビジョン無し、丸投げ、異常言動の中川市政では、上越市の発展は絶望です！

“第一義”を重んじない中川市政は無用です！やはり市長は地元から！

私の「子ども年金制度」の主旨が国に認められました！（子ども家庭庁確認） 感激！あと一步です！

私が主張する「子ども年金制度」の主旨が、政府案に取り入れていただきました。第3子以降月5万円・高卒までが→月3万円・高卒までとなりました。あとは、第3子以降の児童手当を異次元的に「年金」とし、子ども国債の発行対象にすることです。

子ども年金制度実現へ“あと一步”となりました。

国は、少子化は国の存続にかかわる問題として、異次元の少子化対策を、令和5年6月13日に岸田総理が発表し、3年後には総額3兆円台半ばとし、令和7年2月から実施となりました。

その中で、児童手当については、第3子から新たに3万円を高卒まで給付し、更に第1子及び第2子の中学生までだった1万円を高卒まで給付することになりました。私の政策である5万円までにはあと一步となりました。

上越市として、あと2万円を上乗せ(1万円は交付税措置)すれば5万円となります。私が市長なら直ちに(前倒し)実行します。

中川市長は、私の「子ども年金制度」を否定し、第3子以降のニーズ調査も拒否しましたので、私は、国へ直訴する形で、少子化担当大臣及び担当官・官房副長官・総理補佐官・政権与党の国会議員などへ働きかけてきました。その結果、この3月7日に「子ども家庭庁」の担当官に、政府案の作成過程の状況をお尋ねしたところ、「宮越さんの政策はしっかり皆さんで共有し参考にさせていただきます。」とのことでした。その上で「今後の財源問題もありますので宮越さんの出身母体の財務省の方にもよろしく」ということでした。

私が市長なら、国の実施時期が令和7年2月からは遅いことから、来年の4月から前倒しで、2万円上乗せし月額5万円として「子ども年金」として先行実施します。

「子ども年金」制度のポイント

- すでに子を持つ親の希望は3人(現実には2人)というニーズへの壁が、経済的理由であることから、思い切って社会全体の負担で、第3子以降の子に対して月額5万円を高卒まで給付し、子を増やしていただくということが「子ども年金」制度の主旨です。
- 年金という概念は、確実に支給される意味を持ち、予算の都合で支給される「児童手当」の概念とは異なります。
- 財政負担の面は、国の主導で行いますから上越市の負担は心配いりません。ただし、5万円にするために、2万円の上乗分については、市の負担になりますが、モデル事業として取り組みますから、人口増加分の交付税の増加分などで賄えます。
- 子ども年金の実施で、上越市の年間出生数を約100人の増加を目指します。

中川市長は「子ども年金ニーズ調査」すら拒否！

狙い

- ★再び「子育てするなら上越市」で日本1の子育て都市を目指します。
- ★出生数の増加で、都市と農村の人口格差を是正します。
- ★地方創生・所得格差の是正・多子家族化・早婚化・早産化・公共インフラの維持・年金財政基盤の強化が図れます。

★第3子以降の出生数を増やすため、子ども年金のほかあらゆる対策を講じます。

「出生数増10の無料化」を進めます。

第3子以降の、保育料・給食費・医療費・おむつなど・病児病後児保育料・ファミリーサポートセンター・産前産後ケア・不妊治療・婚活マッチング経費・若者新婚住宅費(市営住宅)の無料化を断行します。

★子ども中心のまちづくりを進めます。

まちの拠点に、三世代交流プラザを整備(空き校舎の利活用)、子どもの家を再整備、子どもケアハウスを整備、子ども図書館を整備し子どもの居場所づくりを進めます。子ども病院も作ります。

—今すぐ取り組む緊急政策—

◆労災病院を上越地域医療センター病院の分院化で当分の間存続させます。

療養病棟の充実、リハビリセンターの充実、人工透析態勢の充実、また県立感染症病棟の新設を目指します。

◆ナースコールタウン構想を実現します。

高齢者の在宅療養態勢及び治療負担の軽減並びに通院負担の軽減、遠隔治療(オンライン治療)の充実を図る(自宅の病室化)ための在宅診療体制を充実します。

◆大合併の見直しを進め、新しい上越市をつくりまします。

大合併は人口減少を加速させ、市政運営財源も減少させました。今こそ新しい合併上越市をつくるため、ブロック制を導入し、頸北支所・東頸支所に副市長を置き、権限と責任を持たせ、体制を強化し、ブロック独自の活動・活性化をしやすくします。また、合併の大きな間違いであった中郷区は妙高市へ再編します。

◆新幹線「かがやき号」の即時停車を実現(私との約束有り)します。

私が市長時代に並行在来線を決断した際の約束を守っていただきます。

◆「ふるさと納税」で経済を活性化させます。

直ちに年間納税額を30億円以上を目指し、地場産業の振興を図ります。

◆ホワイトバレー構想の実現に取り組みます。

新幹線駅と高田地区の一体化・連結のための大区画整理事業を立ち上げ、IT企業、研究学園、サテライトオフィス・キャンパス、南高田・新幹線駅間に都市計画道路を整備します。(首都圏大震災の受け皿にも活用) 因みに、APAホテルは私が誘致しました。

◆13区を中心に「地域経営会社(公社)」(本社を総合事務所に置く)をつくり、農山村の持続的発展を可能にします。

地権者・農林漁業者・農業法人・JA・土地改良区・森林組合・郵便局・地方金融機関・地縁団体・土産業者・観光業者・行政退職者・都市住民・専門家・常用雇用者・資本参加者・縁故者などとし、現在行われている現行行政サービスも受託し、自治体からの事務代行交付金を得るシステム。特に、スマート農林業態勢を重視し、若者の参入を目指す。

メンバーと狙い

※私が、この案を内閣府地方創生推進事務局に提案し高い評価を得ています！(平成29年3月30日全国初提案)

◆「上越ドーム」建設へ再チャレンジします。

私と当時の平山知事との間で100億円で造る約束であった「上越ドーム」建設に挑戦。

◆IT高等専門学校創設でIT人材を確保します。

有恒高校を活用して創設。全寮制(小学校の空き校舎活用)で県外からも生徒を受け入れる。

先日知事に直接強く要望いたしました。

◆政治力を生かし、保倉川放水路・上沼道(私の発案で十日町魚沼まで繋げる)・儀明川ダム(私が大蔵省時代に新規採択)の早期完成させます。

◆豪雪対策:加温式消雪パイプ(私が考案)の増設で、暮らしの安心を守ります。

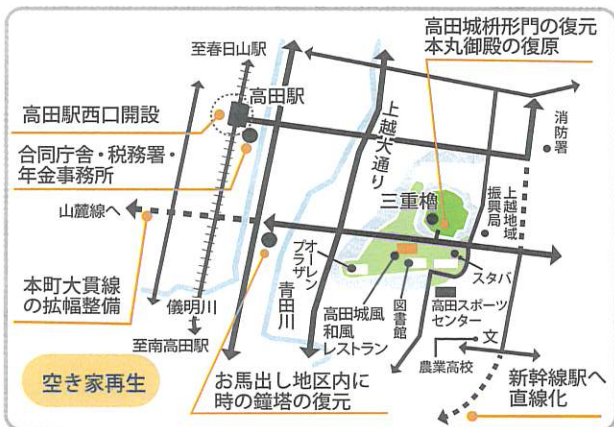
◆火力発電所内に水素製造装置を建設します。

私が誘致した、上越共同火力発電所の空きスペースに、水素製造装置を建設。

◆SDGs 地球環境未来都市のまちづくりを進めます。

私が市長時代に、全国に先駆け地球環境都市NO1になったことを再現します。水素ステーション、脱炭素アプリの導入などESG行政を推進します。

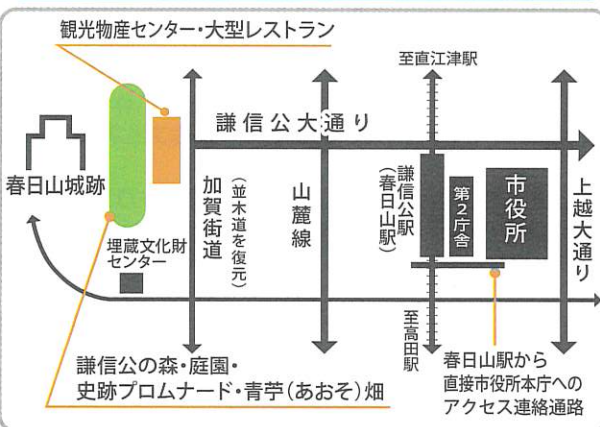
◆高田の重点策◆



柵形門・時の鐘塔・和風レストラン・切り替え道路・本町大貫線2車線化

- ★高田城址公園整備:柵形門の復元・時の鐘塔の復元・三層櫓を展望する和風レストランを新設・南北公園通りの切り替え整備(スタバと県地域振興局の間を十字交差点化)。
- ★本町3, 4, 5商店街の駐車料金を3時間無料化し、パークングの無料化で活性化を図る。本町通りの月1回の歩行者天国化、アートストリート(絵画・彫刻など)化。
- ★本町3丁目～山麓線(大貫線)への2車線化を図り、本町通りへのアクセスを改善(H13に調査費予算化も実行せず)。
- ★狭隘道路への加温式消雪パイプの拡充及び雁木通りの雁木連続化整備(克雪対策)。
- ★高田駅横に合同庁舎建設(高田税務署・年金事務所など)、高田駅西口開設。

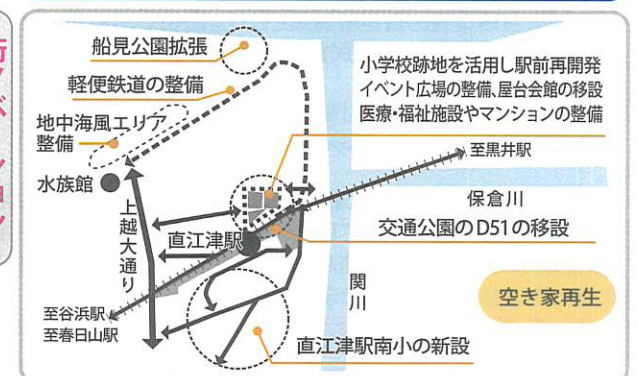
◆春日山の重点策◆



謙信公の森・謙信公の庭園・観光物産センター・大型レストラン・「謙信公駅」へ名称変更

- ★春日山城史跡公有地エリア隣接地(謙信公大通りの突き当り、春日山城展望可)に、観光物産センターを移設。大型レストランを併設。
- ★春日山城史跡公有地化(私が市長時代に取得)地内に「謙信公の森・庭園・遊歩道(史跡プロムナード)」を整備。
- ★春日山駅名を「謙信公駅」に名称変更。
- ★春日山駅から直接市役所本庁舎へのアクセス連絡通路(中庁舎も視野に)を整備。
- ★上越教育大学前駅(藤巻)を新設し、教育・文化のまちづくりを整備
- ★加賀街道の「松並木」復元や青芋(あおそ)畑を整備します。

◆直江津・直江津港の重点策◆



駅前再開発・直江津レールタウン構想

- ★直江津駅前再開発:直江津南小学校を直江津小学校に統合(直江津駅南に新小学校建設)、屋台会館を移設、三世代交流プラザ(含む商業施設)の建設、医療機関の整備・都市型住居等の整備、D51の駅前移設・軽便鉄道の移設(直江津レールタウン構想の一環として水族館へアクセスさせる)・イベント広場などを整備。
- ★直江津エネルギー基地内に水素製造基地を建設:日本海水加工跡地に大型太陽光発電所建設(12ha規模約5メガ可能)・メタンハイドレート基地化を進める。
- ★直江津港に大型ガントリークレーンを導入。
- ★火力発電所の温冷熱利用で大規模植物野菜工場整備・栽培漁業プラントを整備(サーモンなど)。
- ★船見公園を保倉川放水路の残土を利用埋め立てし、海洋レジャー基地を整備。

上越市の舵取りは、地元愛の無い中川市長では無理でした！

今度こそ上越市の発展には、私が立ち上がるしかありません！